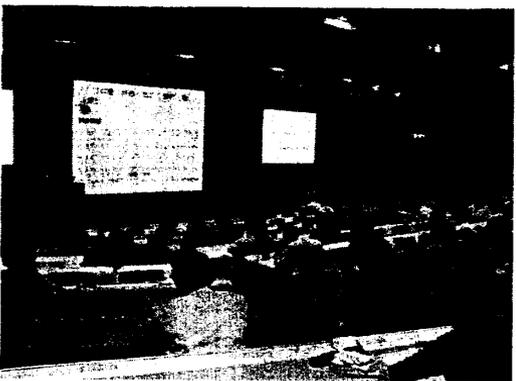


「評価能力」の充実がカギ

薬学教育でフォーラム

—JASDI—



2003年度第1回JASDIフォーラム

「薬学教育に求められる医薬品情報教育とは」が5日、東京港区の共立薬科大学で開かれた。当日は開局、病院、製薬企業の立場から講演が行われた。

各演者は共通して、情報を収集した後に、それを評価、吟味していくための教育を、今後さらに充実させることが必要と強く訴え

た。

地域薬局の立場から講演した安倍好弘氏（ケイロン薬局）は、わが国をヨーロッパなどの諸外国と比較して、「薬剤師の業務に保険でお金が付くというのは稀であり、非常に恵まれた環境といえる」とし、「その結果ともいえるが、どこ

の保険薬局でも薬歴管理、服薬指導が行われるという、世界的にも高いレベルを誇っている」とわが国の現状を分析した。

しかし、一方で「厳しい調剤報酬や規制緩和など、社会の評価が薬剤師に警鐘を鳴らし、ようやくここで危機感が出てきたのではないか」と述べた。そうした状況を踏まえ、今後はファーマシューティカル・ケアを基盤として、患者にQOL向上というアウトカムをコンスタントに提供できないければ、ヤブ医者なら

ぬ、ヤブ薬剤師」の烙印を押しされるだろうと危機感を示した。

そうならないためには「情報活動の品質管理が重要」とし、情報の品質管理

要因のうち「使命感」や「熟練度」などは、現場に出るから後天的に身につけられるが、「論理的思考力」や「適切な情報の収集、評価」などに関しては、薬学教育の中で十分に鍛えてほしいと教育の充実に期待を寄せた。

病院薬剤師の立場から講演した林昌洋氏（虎の門病院薬剤部）は、医薬品情報教育について「添付文書やインターネットを利用して、基本的な情報を収集することはできていくが、そこから先の評価する技術を高めるようにお願いしたい」と要請した。

